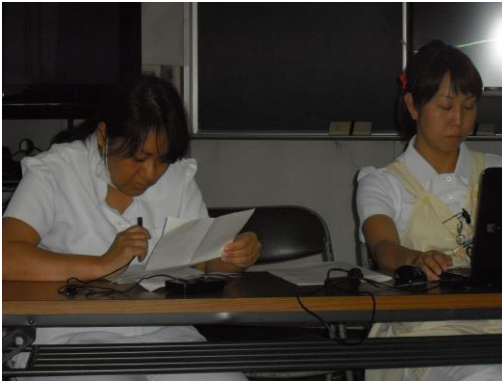


# 看護ゼミにゅーす 10月号

2014年10月17日看護ゼミ報告 (10/29ゼミ委員会発行)

## 演題「ラーメン食べたいという願いから出発した看護

～40歳で予後を告知されたA氏に寄り添う～ 6西 片野さん



めまいがあり「何もしたくない」と言っていたA氏。何かできることはないだろうかとアプローチしたところ「ラーメンを食べに行きたい」という希望を聞けました。食堂にラーメンを注文し、A氏を囲んでスタッフもラーメンを食べました。「うまかった。今日はいい1日だった」とA氏。ベッドごと散歩に行ったり、母親の帰りを見送ったりもしました。A氏の願いを傾聴し、できる限りの応援をしたこと、親子の時間を大切にして看護しているようすが伝わる事例でした。

## 演題「急性期病棟における終末期看護

～寄り添う看護をめざして～ 5東 安齋さん

終末期の3名の患者さんとご家族との関わりがまとめられていました。A氏は週末必ずお見舞いに行く愛妻家でしたが、病状により行けなくなり、かわりに奥さんが他院から看護師とともに寝台車に乗ってお見舞いに来てくれました。親子で時間を過ごした翌日に永眠されました。またB氏の事例では、B氏の永眠後、奥さんは手作りのティッシュボックスカバーを病棟に届けてくれました。C氏は家に帰りたく願っていましたが、病状悪化の中、家族が決意して外泊し、自宅で呼吸停止、救急外来で永眠されました。急性期病棟の中で患者さんの願いと家族との関わりを大切にして、タブーを作らない、タイミングを逃さない看護実践がされていることがわかりました。



## 学習「エンゼルケアについて」

緩和ケア認定看護師 高阪さん

エンゼルメイクの手順だけでなく、IVH 痕や気管切開、胃ろうや褥瘡がある場合のケアの方法について教えていただきました。また、旧来のエンゼルケアの問題点や、家族の思いを聴くことの大切さ、ケアを通してグリーフケアに繋げることも学びました。参加者からは「知らないことがたくさんあり、勉強になった」「身内がなくなった時にエンゼルメイクの大切さを知った。その人らしく送り出したい」などの感想が寄せられました。わかりやすい説明、ありがとうございました。



**参加者は66名** 偶然でしたが、演題2つと学習企画、いずれも終末期ケア、緩和ケアに関わるものになり、深く学び、考えることができました。発表された方、お疲れさまでした。

**次回の看護ゼミは11月21日(金)17～18時。演題発表は“3階”と“付属診”、学習は“医療安全について”です。みなさんの参加お待ちしております！**